

令和元年度第1回栗東市総合教育会議

開催日時	令和2年1月31日（金） 14:00～15:00
開催場所	栗東市役所4階第1委員会室
市長	議長 野村 昌弘
教育委員	委員長 福原 快俊
教育委員	職務代理者 朽木 徳壽
	委員 内記 一彦
	委員 田中 和子
	委員 太田 加代子
事務局出席者	教育部長（中濱）、市民政策部長（仁科）、 危機管理担当次長兼秘書広報課長（木村）、 子育て担当次長兼幼児課長（木村）、 学校教育課長（田中）、学校教育課長補佐（中川）、 人権教育課長（池田）、生涯学習課長（三浦） スポーツ・文化振興課長（片岡） 学校給食共同調理場所長（井上）、幼児課参事（本山） 教育総務課長（福田）、図書館長（西村）、子育て応援課長（的場）

福田教育総務課長

では、定刻より少し早いですけれども、皆さんおそろいになりましたので、ただいまから令和元年度第1回栗東市総合教育会議を開会いたします。

皆さま方にはご多用の中、ご出席をいただき、お礼を申し上げます。

次第に沿って進めさせていただきます。まず、開会に先立ちまして、栗東市長からごあいさつをお願いいたします。

野村市長

改めまして、皆さん、こんにちは。

本日は第1回栗東市総合教育会議開催をお願いいたしましたところ、本当にお忙しい中、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。改めてではありますが、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本当に、総合教育会議の趣旨というのは、教育行政、市長部局と一緒にあって、いろいろなことのコンセンサスを図りながら前に進めていこうという話がまず、基本だと思います。しかしながら、当市は教育長ともいつも話をしながら前に進めておりますので、十分いろいろな形で、これからのこと、方針であったり、計画であったり、内容もいろいろな思いを込めて、前に進めていく、その姿勢で協議いただければと思っております。こうした形で一緒になっていろいろなことが

できているのは、教育長をはじめ、教育委員の皆さま方のおかげと心から感謝申し上げますところであります。

皆さんと一緒に、これからを担う子ども達のためにしっかりと今を、未来につなげていけるように努力していきたいと思っております。どうぞ、今後ともにご指導、ご鞭撻いただきますことをお願い申し上げますとともに、また、スムーズな議事進行にご理解とご協力を賜りますことをお願い申し上げます。

結びになりますが、新型コロナウイルスを始め、風邪、インフルエンザが流行しております。皆さま方にはお体十分ご自愛賜りまして今後ともに栗東市政にご指導賜りますことお願い申し上げ、冒頭に当たりましてのお願いのごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

福田教育総務課長

ありがとうございます。

それでは本日の議題に入らせていただきます。ここからは栗東市総合教育会議設置要綱第4条に、「会議は市長が招集し、会議の議長となる」という規定がございます。これに従いまして、会議の議長を市長にお願いをいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

(議長：野村市長)

それでは大変不慣れではございますが、議事進行をさせていただきます。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

それでは議題1「令和2年度栗東市教育方針(案)について」説明をお願いいたします。

福原教育長

失礼いたします。本日はありがとうございます。

令和2年度の教育方針(案)につきまして、ご説明させていただきたいと思っておりますが、資料が2種類ありまして、資料1の文書のみで書かれたものと、「市民向けホームページ用」と書かれたものがございます。これは以前に、教育方針が分かりにくいので、もう少し整理した形でということで、市民向けに分かりやすくということで作らせていただいたものになります。きょうはそちらのほうをご覧いただきながら説明させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

まず、1ページをご覧ください。「はじめに」の部分がございますが、これは全国的な課題と、栗東市における課題と分けさせていただいておりますが、これが1つのものがございます。

以前から、高度情報化社会、これからの社会がどんどんIT化していくということについて、便利になる一方で、社会の変化が子どもたちの生活に影響を与えているという部分。そして、昨年度は特に災害、地震、風水害等の自然災害に加えて、子どもたちが巻き込まれるような事故、あるいは犯罪の被害が大変目立った年でございました。そこでそういう子どもたちが安心して学ぶことができる環

境の整備ということも大きな課題であろうということを感じております。

それから、栗東市におきましては子どもたちの人口が増えているとはいうものの、今後に向けてはだんだんと減少局面に入っていきます。そのことが、未来の栗東市を支えてくれる子どもたちをどう育てていくかということにつながっていくだろうということで、特に今年は子どもたちの0歳から成人になってもらうまでの間に、このように育ててほしいという目標を持っていただいたその上で、一貫した0歳から家庭の教育、家庭の力、それから幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、そして社会へとつながっていくような教育を目指していきたいということを1つの狙いにして考えにしております。

それを受けまして、2番目の2ページの基本方針でございますが、基本的には3つの柱を立てております。1つ目は「人権を尊重し、人が輝く」、一番初めに輝くのは「人権・同和教育」、今年はその中に「平和教育の推進」ということを盛り込ませていただいております。

それから2つ目の「心豊かに、たくましく生きる人を育てる教育」というのが今までございましたが、これを今、申しましたように、0歳から成人に至るまでの一貫した目標を持った教育、一貫した教育というふうに挙げさせていただいております。

それから3つ目が、それから先の生涯学習、社会教育につなげていくという目標でございます。

3ページをご覧ください。この具体的な3つの柱については、大体ご説明をさせていただきましたが、特に2番目の「心豊かに、たくましく生きる人を育てる一貫した教育の推進」という中の、1行目、2行目に「21世紀を生きる未来ある子どもたちには、教育基本法に示された教育理念の実現に向けて、0歳から15歳を経て、さらに成人まで責任ある社会の一員として自立していくための基礎を育てる」。このことを一番大切にして、一貫した教育という義務教育として、子どもたちがどのように育っていくかということの目標を共有した教育行政を進めていきたいと考えているところでございます。

さらに、最初の課題のところでも申し上げましたが、この2番目の5行目、6行目でございますが、ここに書かせていただいたように、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康や体力」という、大切にしたい項目の中に、これまでは「基礎基本を身に付け、自ら学び自ら考え判断する力」「言葉を使いこなして豊かなコミュニケーションをする力」、それに加えて、「これからの高度情報化社会を生き抜く力」ということで、デジタルリテラシーという、これから必要になってくる力、あるいはそういうITに負けない力というものを「確かな学力」ということで育んでいきたいということを盛り込んでおります。

先ほど申しました、「人権を尊重し、人が輝く人権・同和教育、平和教育の推進」「心豊かに、たくましく生きる人を育てる一貫した教育の推進」、そして3つ目の「郷土を愛し、充実した人生を拓く生涯学習・社会教育の推進」というこの3つ

を中心に、具体的な面については説明をさせていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

(議長：野村市長)

福田教育総務課長。

福田教育総務課長

それでは資料 4 ページ以降、具体的な取り組みについてご説明をさせていただきます。大きく 8 つの項目による構成になっておりまして、項立てとタイトルにつきましては昨年と大きな変更はございません。今回はこれまでの文書になったものと、ということで作成しております。昨年度から変更になったものを中心に説明をさせていただきます。

まずは人権・同和教育の推進です。人権が尊重されるまちづくりを目指す取り組みについての項目となりますが、特に(3)の人権・同和教育及び啓発の充実として、人権・同和教育に関する住民意識調査の結果から人権・同和教育基本方針や輝く未来計画の策定に向けた検討。今後の啓発のありかたや体制の見直しについての記述をさせていただきます。

2 つ目が就学前教育の充実です。ここでは遊びを通しての指導ということで、多様な生活体験を重ねることで、非認知能力を育むことや、12 カ条の取り組みにつきましても記述をしております。

次に資料 5 ページにまいります。3 の学校教育の充実です。(3) 豊かな心の育成の項目で、0 歳から 15 歳を経て成人まで一貫した成長を支える仕組みづくりに向けて、子育てと教育、生涯学習まで一貫したプランを構築し、家庭、地域、園、学校の目標共有を図るとさせていただきます。

資料の 6 ページです。同じく学校教育の充実という項目の 8 番目の教育環境の充実を図るでは、学校施設の長寿命化、校舎・体育館のトイレの洋式化、学校 ICT 環境整備などについての記載をさせていただきます。

4 つ目、生涯学習の充実という項目では、(2) 読書環境の充実において、「第 3 次栗東市子ども読書推進計画に関して」を記載しております。

7 ページにまいりますと、5 つ目、青少年の健全育成。こちらでは次代を担う青少年の育成の取り組みについて。6 の生涯スポーツの振興では、(2) 国民スポーツ大会や全国障害者スポーツ大会の準備において、市民体育館の改修に向けた記述。

次に 7 です。市民文化や芸術活動の振興では、引き続きさきらを活動拠点とした芸術文化活動について。そして 8 番目の文化遺産の保護と活用では、文化財保存活用地域計画の策定着手ということで、文化遺産の保護と活用のあり方の検討をさせていただきます。

以上、具体的な取り組み方針の説明とさせていただきます。

(議長：野村市長)

のちほど、教育委員会定例会があるということですが、私も交えて市長部局と

一緒になってやっていかなければいけないことや、このへんはどうなったのかというように交えて、ご質問いただければと思います。

では朽木教育長職務代理者からどうぞ。

朽木教育長職務代理者

栗東市教育方針の3つの柱でございますけれども、1つ目に人権、2つ目には一貫した教育、それから3つ目には生涯学習の充実というような柱で決められておりますけれども、私が教育委員として出させていただいているのは、社会教育の立場から出させていただけるのかなというようなことを思います。

この場をお借りして申し訳ないのですが、先週の土曜日、栗東市の青少年育成市民会議の発足50周年記念大会をさせていただきました。多くの皆さまにご出席をいただきまして、何とか形のあるものができたかなと思うところで、ここで一言、御礼を申し上げさせていただきます。そんな立場から、私の思いといたしましては、生涯学習の充実、青少年健全育成、それがあって大人が変われば子どもも変わる、大人が姿勢を正して、青少年が夢や希望をもって健やかな成長ができる、そういう社会を目指していきたいということで、生涯学習の充実に私は力を入れていきたい。それが私の思いでございます。

(議長：野村市長)

ありがとうございます。田中委員。

田中委員

教育方針を見せていただきました。昨年度よりも非常に分かりやすくまとめてくださっていますので、力を入れるところ、ポイントとなるところがすごくよく分かって、ありがたいなと思いました。

3つの重要な柱の2つ目の「心豊かに、たくましく生きる人を育てる」「一貫した」というところで、「一貫」という言葉が入ったことによって、今の栗東市の教育委員会でやろうとしていることがクローズアップされて、この「一貫」という言葉のもとに、さまざまな連携活動が展開できていくなと思いました。

教育長さんからご説明がありましたとおり、学力・人間性・体力というその3つのことが全人格的な人間を育てるという意味合いで、成人式の言葉でもおっしゃっていたことが、ここに言葉として出されているので、それも栗東の方針として大事にしていきたいなと思っているところです。

それから4ページの就学前教育の充実のところでは、まずは「遊び」ということが一番大事ですので、昨年も「遊び」という言葉を使っておられます。それに併せて非認知的能力という、今までもしていたことですが、こういう言葉を使って今後展開していくという、そういう方向性が全体を通して感じられましたので、一緒になって私も微力ながらがんばっていきたいなと考えた次第です。ありがとうございます。

(議長：野村市長)

ありがとうございます。太田委員。

太田委員

保護者の目線で今まで教育委員会というものを見てきた立場として、こんなにいろいろな方針をこと細かく考えながら教育を考えてくださっていたということに、保護者の1人として感謝するのと、ありがたいなと思いました。

ただ、これからはまず教育委員として、立場をちょっと違う方向から見させていただいて、栗東市の教育に向けて微力ながら力を添えられたらなと思いました。

子どもは小学校を卒業するので、小学校から離れてしまうのですけれども、幼稚園、小学校とすごく教育的には大切な時期だと思うので、そういうところを保護者ではなく教育委員としてこれからの子どもたちに手助けができればいいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(議長：野村市長)

ありがとうございます。

内記委員

本市教育環境の整備、とりわけ今まで給食センターの新設とか、小中学校のエアコンの整備、あとは近年では洋式トイレの改修工事。財政が厳しい中、ご尽力いただきまして、誠にありがとうございます。

そこで今の基本計画の5ページ、6ページの学校教育の充実の項目でございますが、ICTの環境の段階的整備について決まっておりますように、本市の全児童生徒に1人1台の端末の整備が計画されております。

これにつきまして、国の政策でもありますが、近年のSNS、5Gの時代にあつて必要アイテムであると考えております。本市の財政状況が交付税の不交付団体となり厳しい状況とは存じますが、未来の栗東を担っていく子どものためにも早期の支援の形をお願いしたいと思っております。

併せて、現在、各小学校ICT環境は十分とはいえない状況です。校内無線LANネットワークのように校務支援ツール等の完備は必要ではございますが、並行した早期整備をお願いしたいと思っております。よろしく願いいたします。

(議長：野村市長)

今の件については、仁科市民政策部長などともいろいろ協議しました。3月補正等で校内LANはきちんと整備をし、これから先に滋賀県のほうが統一した仕様でやっていこうということが今、話として出つつありますので、そこを見ながらこの2~3年、リミットまでには全部揃えられるように努力したいと思っております。

校内環境のものだけまずさせていただいて、そこから先にそういうことができるようにはしたいなと思っております。国のほうは、不交付団体にはご承知のとおり厳しいです。ただ、予算についてはいろいろなものをできるだけ活用してやれる努力をしたいなと、思っております。これは教育長とも話済みでございます。

私から質問を皆さんにしたいのですけれども、教育長が「ことばのチカラプロジェクト」といってこられ、1年たつての成果というのはどういうことがあつた

のかということと、私も保護者の1人として、よくまちづくり座談会に行ったら「くりちゃん検定」のことについてご指摘をいただきます。やっているということは聞きますが、実際にどうなのかということ、できたらこの機会に一言二言いただけたらと思います。

田中学校教育課長

ご質問ありがとうございます。中川学校教育課長補佐のほうで説明をさせていただきます。

中川学校教育課長補佐

まず、「ことばのチカラプロジェクト」ということですが、中身としては5つの取り組みをやっていきます。まず、学区別、中学校区ごとにいろいろな独自の取り組みをやっていただこうと。例えば栗東中学校で言いますと10の共通実践という形で、あいさつをやったりとか掃除をやったりとか、そういった心を鍛えたり、あるいは言葉で人を傷つけずに思いを伝える方法を身に付けるというのを、去年から取り組みをやっていきます。

栗東中学校は、リーダー的にクラークシップとして活躍いただいているのですが、その成果としましては学力テストであったりとか、あるいは学校全体の落ち着きということで、ここ数年、非常に成果が上がっていると多くのところからも評価を受けておりますし、学校教育課としてもそのように評価をしております。

それを受けている形で、葉山中学校区、栗東西中学校区で、それぞれ「ことばのチカラプロジェクト」に基づいた子どもたちの体験を大事にすること、伝えようとするものをしっかりと心に植え付けること、そしてそれを表現する力というプロジェクトに取り組んでおります。

そのほか、このプロジェクトには図書館教育の充実、あるいは外国語活動教育の充実ということをやっております、特に英語科においては国際情報高等学校との実際の交流をやりまして、そこでのノウハウを学んだり、教員が実際、国際情報高等学校の先生からいろいろな指導を受けたりといった場面を、教育長が先頭に立って交流の機会を作っていただいております。

(議長：野村市長)

くりちゃん検定は。

中川学校教育課長補佐

くりちゃん検定については長い歴史があります。現在は小学校の1年生から6年生で国語、算数の基礎学力を定着するという目的のために行っているところでございます。

これは基礎学力と、もう一つ、学習の姿勢を身に付けるということで取り組みを進めているのですが、始めたときにはなかなか成果が上がっていなかったところが見えましたが、長く続けるということで、学校でもこのシステムが定着はしっかりしておりますし、子どもはそれに向けて、長期休みに基礎学

力を定着させるために、漢字、計算の学習をしているということで、基礎学力についてはしっかりと定着していると考えております。

(議長：野村市長)

中学校は新しくしましたがどうですか。

中川学校教育課長補佐

中学校のほうは、くりちゃん検定のような検定システムというよりは、Gテックという英語の力を付けるための検査であったりとか、特に2年生でやっております「栗東市検定」と、栗東市の学力検査というものを導入させていただいています。

主に授業改善に役立つために、子どもたちの弱点というのを2年生のうちに、もう一度しっかりととらえ直すということで、特徴としましては学校ごとにそれぞれ分析をしていただきます。トップの子と次のグループ、次のグループと最後のグループではどのくらいの開きがあるのかによって学習方法を変えます。例えば全体的に低い場合にはもう一度基礎的な部分を全学年に、トップと一番下が離れている場合には個別でやるというように学習方法を変えるという取り組みをやらせていただいています。

(議長：野村市長)

ボーイスカウト・ガールスカウトの「こんにちはトーク」の中で、今のことをいろいろ聞かれて、同じことをきちんと知っているのですけれども、なかなか分かっていただけないところがありましたので、十分分かりやすく、例えば議会で質問を受けても答えられるようにしてあげてください。このようにしてよかったのだということを、しっかりと説明ができれば結構だと思います。それだけ、お願いします。

それでは議題の2番目、第3期栗東市教育振興基本計画案について説明をお願いします。

福原教育長

資料2をご覧くださいと思います。第3期栗東市教育振興基本計画は本来ですと先に教育方針の前に制定させていただくものでございますが、ちょうど改定時期に当たりますので、この案を併用させていただくほうがよいかということで、こういう組み立てをさせていただいています。

私のほうからは、最初の部分、全体の構想図のところについて説明をさせていただきますので、よろしくお願いたします。

この振興計画に当たりまして、私のほうが最初の文書を全体の目標設定ということで書かせていただきました。未来のまちを作る人を育てるということで、先ほども申しましたが、全国的な課題、栗東市の課題は今も大きく変わることはございません。さらに一層、少子高齢化が進んでまいりますし、ますます高度な情報化が進んでまいります。その中で子どもたちの教育の問題はますます難しい局面に入っております。

その中で子どもたちを将来、未来の栗東市のまちを支えてくれる、そういう人に育ってもらうために、子育て、保育、学校教育、それから青少年の健全育成というものが一つにつながって、同じ目標を共有しながら進めていければということの基本に据えているところでございます。

下段のほう、半分から下のほうに3つの方向性ということで箇条書きにさせていただきました。1番は、自分を大切にすると同じように、ほかの人を大切に育てる。命、人権を大切に。ボランティア精神、奉仕性を育成していく。誰ひとり取り残さないというのはSDGsの4番の目標であります。

2番目が未来を切り拓く力。これは先ほど申しました、学力、体力の育成。今もご質問がございましたことばの力。それから主体的に生きる、自分が役に立つのだという自己有用感を育成していく。人間関係を築いていく力を育てる。これが2番目のものです。

3番目に、先ほどご説明させていただいたのが、0歳から15歳を経て成人まで、一貫した成長を支えていこうと。子育て支援、あるいは家庭教育ということに關しましては、経済的な視点、あるいは福祉的な視点でものを考えていますが、これを教育的な視点で支えられないか。それから実際に、保育、教育、生涯学習を、目標共有としていければなということ、本日、繰り返し申し上げているところで

す。それから、家庭、地域、園、学校の目標の共有です。これは今、申しましたところでございますが、一貫した目標設定をこれまでの取り組みにプラスして「仮称くりちゃんビジョン」と申しましたが、目標設定をした上で取り組んでいけたらなということ考えています。子どもたちが明るく幸福な未来の栗東を作る人として、私たちは育てていきますようによろしくお願ひしたいと思ひます。

右側の構想図はそれを形にしたものでございます。育ってほしい、このようになってほしい、栗東市を支える人になってほしいという目標に向かって、みんなが幼児教育も保育も家庭教育も、小・中・高も、生涯学習もみんなで心と力を育てて、成長を支えていけるような教育づくりをしていきたいというのが基本的な構想でございます。

中濱教育部長

それでは第3期の栗東市教育振興基本計画（案）の中身につきましてご説明をさせていただきます。お手元の資料に資料3ということで、「第3期栗東市教育振興基本計画概要」を付けさせていただいておりますので、これによりまして説明をさせていただきます。

趣旨で記載しておりますとおり、本計画につきましては、教育基本法に基づく計画といたしまして、すでに策定をされております国、県の「第3期教育振興基本計画」、これを参酌いたしまして第2期の栗東市教育基本計画の成果と課題を踏まえ、第3期の計画を策定するものでございます。

また、上位計画であります栗東市総合計画、また、その他の教育に関係します

計画との整合も図らせていただいている状況でございます。次の枠組みでは計画期間を5カ年といたしまして、これまでの国、県、本市の教育振興基本計画策定の経過を左側に図示をさせていただいております。右側では教育基本計画や他の関連計画との関係。また、構成を図示させていただいております。

当計画では「心豊かにたくましく生きる人の育成」、これを本市の教育振興の基本目標に、本市における主要課題について裏面に記載をさせていただいております。「今後5年間に取り組むべき施策と目標」に取りまとめをさせていただいて、具体的な取り組みとしております。

また、基本項目とSDGsを関連づけるとともに、生涯学習の社会づくりを基本的方向の4、④として新たに取り組んでいくこととしております。

本編のほうをご覧くださいなのですが、本編の62ページ第6章に、計画推進のために必要な事項という形でまとめさせていただいております。学校、園、家庭、地域等、それぞれの役割や責任を再認識の上、相互の連携の強化のもと、計画の実現に向けた取り組みを進めることとしております。特に教育委員会と市長部局がコミュニケーションを密に目標共有のもと、0歳から15歳を経て成人まで一貫した成長を支えること。例えば、家庭教育、子育てに始まり、幼児教育、学校教育、そして社会教育、生涯学習への途切れない継続した学習活動を生み出す。先ほど、教育長のお話にありました、「くりちゃんビジョン（仮称）」の具現化に向けた取り組みを図るということで2番目に書かせていただいております。

内容といたしましてはしっかりと一貫した学習活動を支援して途切れない継続した学習活動を進めるということを中心に策定をさせていただきます。

また、12月25日から1月20日にかけてパブリックコメントを実施させていただいております。ご意見はございませんでしたのでご報告をさせていただきます。

本日の総合教育会議、また教育委員会定例会での審議を経て、3月議会での報告をさせていただき、年度末に策定の予定をさせていただいております。

（議長：野村市長）

ありがとうございます。これだけは言っておきたいということがあれば、その部分を挙手をお願いを申し上げたいのですが、いかがでしょうか。

内記委員

第3期栗東市教育振興基本計画ですけれども、その冒頭に全国で少子高齢化が進むなか栗東市では令和元年8月に7万人を超えたというような形で書き出しがされております。今から言うことが最終的には教育にも絡んで思うのですけれども、ちょうど1年ぐらい前に文部科学省が東京で会議を開きました。そこに出席をさせてもらって、グループ討議をされました。

その中で当市はまだ人口が増えているというような話をさせていただくのです。そうしたらほかのところは皆、びっくりされるのです。どこへ行っても少子高齢

化、人口が減っていく、学校が統合されていく、廃止されていくというような話ばかりをされます。

全国とか西日本の会議に行かせてもらっても、同じようなことでした。

人口問題で、今は7万人増えたという話ですけれども、最終的には教育にも関わってくると思うのですけれども、人口増加はいつごろまで続くと見ているのでしょうか。

(議長：野村市長)

2045年辺りをピークに思っています。人口ビジョンより、少し早めに7万人になっていますが、このことはまだ今の段階で伸びるであろう7万2,000人を目途にいろいろやっっていこうと思っております。

内記委員

最終的には教育にも絡んでくることですので、聞きたかったのです。

(議長：野村市長)

ありがとうございます。治田小学校が足りないようになる可能性が出てくるかもしれませんが、今のところ、そういう方向でやらせていただこうと思っております。ほかにいかがですか。

田中委員

人権のところ、今年度平和教育の啓発とあります。その住み分けというのですか、例えば40ページは人権・同和教育、平和教育。それから大きいところで5ページのところは市の課題としては人権・同和教育の推進というふうに、その辺があればお教えいただきたいと思えます。

池田人権教育課長

5ページのところはこれまでに本市で実施してきました人権・同和教育の推進を、今の社会状況に合わせて充実させていかないといけないという危機的な状況もございますので、そういう部分を書いております。確かに40ページのほうは平和教育という部分も入ってきます。これは第6次総合計画の中でも平和教育と人権・同和教育と一緒に考えていこうという方向で、SDGsの4番に則ったものとして、ここの取り組みは期待できると思います。

特に平和教育の中でも命の大切さというか平和の大切さという部分もこれまでほかの項目として挙がっていたものを、今後やはり人権・同和教育と命の平和教育をやはり合わせていくという方向に変わっているというところでございます。

田中委員

ありがとうございます。

(議長：野村市長)

ご協力感謝申し上げます。ただいま第3期栗東市教育振興基本計画案について説明をいただきまして、いろいろしていただいたわけですが、教育大綱について事務局から説明をお願いします。

中濱教育部長

教育大綱でございますが、教育大綱の策定につきましては地方公共団体の長の策定が義務付けられております。これまで策定してきておりますこの第3期栗東市教育振興基本計画。この中の目標や施策の根本部分が、この教育大綱に該当すると位置づけられることを、本日のこの総合教育会議の中で協議、調整が図られた場合は、別にこの教育大綱を策定する必要がない、このような形でされております。

本市では現在の第2期栗東市教育振興計画も教育大綱に変えさせていただいておりますし、今回提案をさせていただいております第3期栗東市教育振興計画につきましても、教育大綱に変えていくこととしたいと考えておりますので、ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

(議長：野村市長)

時間的なこともありまして、その他のところでもう1回皆さんに聞かせていただきますので、その間に議題3の「草加市合同視察研修及び家庭教育支援に関する研修を終えて」の報告、説明をお願いします。

福原教育長

先ほどから何回も繰り返し申し上げますけれども、これまでの幼児教育、学校教育、家庭教育を一貫して結び付ける。一貫した教育を進めるという分析のために、埼玉県草加市の取り組みを議会のお世話をいただきながら合同視察研修をさせていただきました。

1番の課題は、この市長部局、教育部局の円満な連携を可能にした仕組みづくりということで、どのようにそれを進めておられるのかということを進進地の草加市で研究させていただきました。

今月の15日、16日に藤田市議会議長、上田文教福祉常任委員会委員長、それから議会の事務局長、副市長、伊勢村子ども健康部長、的場子育て応援課長、それから学校教育課の中川学校教育課長補佐と澤居指導主事、そして私が一緒に視察をさせていただきました。内容につきましては中川学校教育課長補佐のほうからお願いします。

中川学校教育課長補佐

議長、委員長には事前にご報告をさせていただきまして、それ以後、この資料等にまとめましたので、本日はこれに基づきながらご説明をさせていただきます。

ただいま、教育長よりお話がありましたように、これから接続への見通しを持った教育、一貫した教育をやっていくために勉強しにいこうということで行ってまいりました。3ページから入らせていただきます。

まず草加市のほうでご説明の中で印象的だった部分、草加市がなぜ0歳から15歳、この15年にかかるプランを考えることができたということなのですが、発端は教育委員の先生方のお話が発端のようです。ただ、そのことに肉付けしていく中で、その埼玉県のほうでご活躍されている幼児教育の大家の研究者がおられるのですが、その方が草加市さんとの距離が近いということで、この先生の持つ

てこられた理論であったり理屈を、ベースにされているなという話です。

特にご説明いただきましたのは「皆さん、ペリー幼児教育計画をご存じですか」というところをスタートされたのです。これは何かといいますと、下に書かせていただいていますように、実はソ連とアメリカが、いわゆる経済の部分、あるいは科学技術の部分でしのぎを削っていた時代に、アメリカが危機感を持ちまして、科学教育と幼児教育に非常に国家規模の予算を費やした時代があるのです。そのときの有名な研究の一つなのですけれども「ペリーの就学前教育」というのは、ペリー小学校付属幼稚園で行われた大実験のことをいいます。

何かといいますと、貧困、ちょっと経済的に苦しいご家庭、アフリカ系のアメリカ人のご家庭を対象に特別な教育をやられました。それ自体は、例えば園で少し、1時間残しで勉強しているというものもそうなのですけれども、一番手を入れられたのは、おうちのほうへの助言だったのです。

中身として言われているのは「子どもの前では約束をちゃんと守りましょう」あるいは、「子どもたちが夜、決まった時間に寝られるようにおうちの人も合わせましょう」。子どもが大きくなってからはそんなではありません。この時期だけはこうしましょうという、きっちりと毎日通って、週何回かの訪問の中でお伝えされたようです。その結果が下のグラフになっています。

まず、園児のころ、小学校のころに比べますと、それを受けている子と受けていない子では3倍ぐらいの開きができます。IQ90というのはある程度平均点を取れるという力なのですけれども、それにたどり着ける子がこれだけのグループです。ただ、それが小学校、中学校を経ていくと、その差が結構縮まっていくようなのです。

ただ、この調査がすごいのは、長い期間をかけてやった結果で、実は成人してからの成果です。学歴においてどの程度の差がついたのか。また、年収においてどの程度の差がついたのか。犯罪を犯す可能性についてどの程度の差が付いたのかまで追跡しますと、結果としてどんなに最小に見積もっても、1ドルかけた取り組みに対して7ドル以上の成果が上がったということが明確になりました。多く見積もれば30ドル、50ドルぐらいまでいったのではないかという説もあるというくらいに、非常に幼児教育を大事にすることが、その後の姿勢であったりとか社会全体にもたらす恩恵というものが非常に大きいということを証明しました。日本でも「幼児教育の経済学」ということで、非常に広く注目された時期もあったようです。

これを根本において、「草加でやる場合には、これをしよう」と思われたようです。そこで、草加市自体も近隣に力のある市町が隣接し、人口の取り合いが起きている中で、「草加で子どもを育てたいと思う」「教育するなら草加で教育、子育てをしたい」というくらいの魅力ある教育を作るためにこの理屈を取り入れ、そして草加市の子育てというものを考え直されたということです。手段としてはずっと、順次書かせていただいているところです。

そして4ページ4番目の「プログラムの実施」というところをご覧くださいませうでしょうか。結果として最後に導き出されたのが、0歳から15歳まで、各この年にはこのような力をつけよう。そのためには教員は、保育士は、親はこのような取り組みをしようということをお願いされます。その事案が次の5ページにございます。

これは算数・数学に関わっている計画なのですが、全体計画があって、算数ではこのように力をつけていきましょう。国語とかもまだできてないようですが、最終的にはそのようないくつかの領域に限って細かく作っていくようです。

子どもたちには、これは下敷きなのですが、下敷きまで作ったわけです。下敷きを作って「みんなはこの時期にあるからこの力を付けようね」ということをやったという感じですね。

ここに書いてあるところの、例えば過程において生活リズム、早寝早起きをしろと、身支度、自分のモノを大切にしよう、思いやりの心。これを読んでいますので、確かに栗東の12カ条そのものをほうふつとさせるのです。このように子どもたちを育てる。そういう意味ではわれわれが取り組もうとするときの参考になります。

そのあと、この説明を受けまして7ページ、8ページと。今回、文教の委員長であったり議長であったり、それから教育長、そして部長といろいろな方が次から次へと矢継ぎ早に質問しまして、向こうも非常に「大変ご熱心ですね」とお言葉をされたぐらいにもう時間を超えてまで質問をされています。

いくつか、特徴的なところを申し上げます。まず、出発のうちにどこが成功の秘訣(ひけつ)ですかというような質問をさせていただきました。そうしますと、初代の室長、組織の中で、教育と保育とかの部分をつなぐ上でのいわゆるすみわけがうまくいったというところがあるとのことですね。例えば栗東市でいいますと、保・幼までについては子ども健康部の幼児課が担当します。小・中に関してはぶつと切れて、教育部の学校教育課が担当するとなっているのですが、向こうはヒト、モノの部分については福祉です。

何を教えるか、どのように育てるかについてはやはり教育が担当しているという、そういったイメージが強かったです。そのあと、そういったすみわけの中で一貫がしやすかったということですね。

待機児童とかの割合でいいますと、ここに書いていますように627人いるのです。ただ、国基準でいうと25人かなというところで驚きを持ったのですけれども、確かに手当の部分、ヒトとモノの手当の部分で、そこそこうまくやっております。

ただ、草加市がイメージされていますのは、そういった子育ての負担を軽減する取り組みとは別に、どのように子どもたちを育てたらいいかということをしつかりと伝える取り組みとして、今回の0歳から15歳を、家庭のほうに広げるということを考えるというイメージでした。

最後、時間の関係もありますので 9 ページを見ていただけますでしょうか。15 番の質問です。栗東市で教育の取り組みを進めるにあたって、各校・園の自主性を大事にするか、市の方向を大事にするか迷っています。つまり、強制的に栗東市はこんな教育をやるから従いなさいとやるのか。あるいは校長先生や園長先生等の思いを大事にするのか。そのバランスとのところはどうのようにやっておられますかという質問です。

「半々です」と言っておられました。つまり、市として草加市民はこう育てたいのだと市から出す。しかしそれが 100%ではない。必ず各校区で、栗東でもやっているような、中学校区それぞれでやってくださいよ、やり方についてはお任せしますよという形でやっているということです。

何よりおっしゃっておられましたのは、強制的にこのように 0 歳から 15 歳でやるといったときに抵抗がありました。この抵抗を下げるためにいろいろな工夫を考えましたと。そこで草加市は今、中学校区、1 中学校に 1 人の接続に関わる教諭を付けています。11 の中学校があります。つまり 11 人を市単独で教員を配置して、園から小学校に行くときのつなぎをサポートすると。そして交流会をやったりするときの主催であったりとか、小学校ではこのようなことをやっていますよということを園に伝えたりという役割をされています。それを同時に入れたことによって、仕方ないかということで、現場のほうも受け入れてくれたのだということが 1 つです。

次の質疑応答の 16 番をご覧ください。この視察後、栗東市でも準備室を立ち上げたいと考えているが、市長部局と教育委員会が同じ方向を向いて、体制を維持し、継続していくためにどのような工夫が必要なのか教えていただきということです。

先ほどの 3 ページのところに写真があります。この方が本当に有名な方で、その奥におられる方、当市でいいますと教育部長に当たられる方なのですが、教育総務部部長をしておられる方なのですが、この方がちょっとしゃべっておられたのは、「実は私が以前ここにいたときに立ち上げの企画立案のときにいました」と。「それは私自身が実は行政マンで教育や園教育のことは全然分からないのですが、行政職に通じた私が立案して、いわゆる政策のところにと落とし込んだ。それがもしかしたら成功の秘訣だったのかなと思います」と。「つまり行政はこうしたら動くということを知っている人間が組織を組んで、そして学校や園に対して手当をしながら、この教育を実現してくれという方向を組んだ」ということをおっしゃっておられました。それが 16 番のことです。

先ほど申し上げましたように令和 2 年度、12 カ条と「ありがとうと言える子育て運動」を少し統合した中で次の段階に入っていくための組織づくりであったり内容について考えていく、大きなヒントをいただくことができました。以上、でございます。

(議長：野村市長)

草加市合同視察研修及び家庭教育支援に関する研修を終えての報告につきまして、報告をいただきました。その他の項に入りますが、基本計画を大綱に置き換えるということ、皆さんいかがでしょうか。

内記委員

大綱に置き換えるには、この会議をしなければならないということでしたので、国からは教育振興基本計画を大綱に変えてもいいですよという話がありますので、市長部局なり教育委員会なりの同意があれば、われわれはそれで結構かと思えます。

(議長：野村市長)

ありがとうございます。そうしたら置き換えるということで、ご異論がないということですので、よろしくお願ひしたいと思えます。

今の研修成果についてはできることからしっかりと活かしていけるように努力をしていきたいと思えますし、副市長、そして教育長からも報告をいただいておりますので、十分、そのことを含めて組織づくり、また皆さん方の思いに応えられるように努力したいと思えます。

その他でもう1件、成人式の関係のことです。2022年に民法の一部改正で成人年齢が18歳に引き下げられます。皆さんの思いにはどうかなということ、いろいろ学校のことなど考えたら今のまま変えないほうがいいのではないかなというようなことを私自身は思うのですけれども、いかがでしょうか。

田中委員

そう思えます。

福原教育長

18歳になっても20歳のという形、18歳で成人式をやってしまったら何か見ていて違和感を感じるので、20歳の成人式の形でやればいいかなと思えます。

(議長：野村市長)

そうですか。ありがとうございます。太田委員、どうですか。

太田委員

そう思えます。

内記委員

以前に、教育委員会定例会でそういう話がありまして、やはり大学受験がある関係と、高校3年生の時に一緒に成人式をしなければということがありますので、今の20歳の成人式のほうがいいのではないかなという意見が出たので、それでいいと思うのです。

(議長：野村市長)

ありがとうございます。

(議長：野村市長)

こうすることで、いろいろ情報共有化を図りながら、これからもいろいろな話をさせてもらおうということですのでよろしくお願ひしたいと思えます。

皆さん方のご協力でいただいた時間になりました。大変、皆さん方の議事進行のご協力に感謝申し上げます。事務局のほうに返させていただきます。ありがとうございました。

福田教育総務課長

どうもありがとうございました。ではいただきました議題 3 項目につきまして、ご議論いただきました内容を踏まえて今後、取り組んでまいりたいと考えております。ありがとうございました。

閉会のあいさつを教育長からお願いいたします。

福原教育長

どうも長時間にわたりまして、ご審議いただきまして、ありがとうございます。何度も繰り返して私は同じことを申し上げておりますが、先ほどの草加市の報告の中にございましたように、アメリカのペリー教育計画の中に幼児教育の 1 ドルは成人の何十ドルにもなる、ひょっとすると 100 ドルになるかもしれません。子どもの時期にどういう教育をしていくのか。これはそのときにお金をいくらあげるかではなくて、どういう教育をしていくかにお金をかけるということが、こんなに差が出るということはやはり日本のことわざにもあります「三つ子の魂百までも」。

0 歳から私たちはやはり成人教育を支えていくために教育的な視点で考えていかなければならないし、教育行政もそのことに配慮していかなければいけないという市長の力強いお答えもいただきましたので、これから令和 2 年度の教育、これからの栗東市の教育をさらに粛々と前に進めていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞ、よろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

一同

ありがとうございました。